熊谷市水道事業経営戦略（改定版）（案）に対する意見及び市の考え方

１　意見募集期間

令和５年１１月２７日（月曜日）から令和５年１２月２６日（火曜日）まで

２　意見の提出者数及び意見の件数

提出者数　　２名

意見の件数　　３件

３　意見の概要及び市の考え方

該当箇所	意 見 の 概 要	市 の 考 え 方
第６章 １）民間の資金ノウハウ等の活用（ＰＦＩ、ＤＢＯ、ウォーターＰＰＰの導入等	年々物価が上昇し、市民の生活は厳しくなっています。水は命や健康にかかわるライフラインであり、災害時や給水にトラブルが生じても、すぐに対応できるのは行政だからではないでしょうか。また、民間事業所は利益を考えなければなりません。コスト削減のために、安全基準や質を落とすことや、車業界のように隠ぺいもないとは限りません。命に直結するものなので、他の事業（建物の建設、スポーツ支援等）の財政を削減しても、水道事業は行政でお願いし、コロナ支援のように、問題が起こった時に、まずは水道が高価でなく、市民全体が安心して使用できるようにお願いします。	水道事業においては、人口減少により料金収入は減少傾向にあり、また、施設の老朽化に伴い更新や耐震化に係る多大な投資が必要になることから、今後の経営状況はますます厳しいものとなることが見込まれます。 国は、このような状況への解決策の一つとして、民間企業のノウハウや創意工夫を活用した官民連携（ＰＰＰ／ＰＦＩ手法）の活用を挙げ、ウォーターＰＰＰの導入拡大を図っています。 水道事業は住民の日常生活に欠くことのできない重要な事業であり、その事業を将来にわたって安定的に運営する必要があることから、官民連携については、先進事例や国の動向を注視し、市民の皆様が安心して水道を使用できるよう努めてまいります。

該当箇所	意 見 の 概 要	市 の 考 え 方
計画案の「人口減少」について	計画案を読んでいると、度々「人口減少」という言葉が出てきます。熊谷市の「人口減少」について、他の計画案のパブコメにも関わることなので、市報を通じて、人口減少について詳しく教えてください。よろしくお願い致します。 「人口減少」は少子高齢化の影響もあると思いますが、社人研の人口動態が 2022 年を機に、予測値を大幅に上回る人口減少が日本では起こっています。熊谷市でも同じ傾向があってもおかしくないと考えますが、市民にわかりやすくグラフにして、ここ 10 年間の「人口の推移、死亡者数、死因、年代別の人口推移、転出と転入の推移、転出、転入の理由」がわかると、市民も市政に興味を持ち、積極的に参加してもらえるのではないかと考えます。 また、水質についてですが、有機フッ素化合物は厚生労働省の定める暫定基準目標を下回ってはいますが、もともと、日本の基準規制は緩く、アメリカは 4ｎg/L に対し、日本は 50ｎg/L と、10 倍以上高いです。年々死因に悪性腫瘍が増加している要因ではないとは否定できないと思います。また、熊谷市は地下水を使用していますが、諸外国では使用禁止になっているラウンドアップも市販されていますし、厚生労働省の農薬の対象リストにネオニコチノイド （次頁に続く）	本市の「人口減少」については、市民の皆様にわかりやすい情報を提供できるよう努めてまいります。 また、水道水の水質については、国の定める水質基準等を遵守し、これからも安心、安全な水道水の供給に努めてまいります。

該当箇所	意 見 の 概 要	市 の 考 え 方
	（前頁から続く） 系の項目がないため、熊谷市でも検査されていません。安心・安全な市、市民の声が反映される市が、今後は選ばれると思いますし、熊谷には先人たちが残して下さった自然豊かな地域であり、大きな災害もなく過ごせています。それは今まで、熊谷市を守ってきた方のお陰です。子供たちに喜んでもらえるような環境を残してあげたいと私は切実に思っています。	
ー	水道事業は非常に大切で将来に大きな課題を持つものと認識しており、今回の意見公募で疑問や意見を提出したいと考えました。しかし公表された経営戦略が専門的で、一市民の私には大きな方向性を読み解く事すら困難でした。 これまでの他の意見公募同様、概略版も合わせて公表し一般市民が理解しやすい情報のご提供をお願いいたします。	本計画につきまして概略版の作成の予定はございませんが、本計画のポイントを記載したものを追加し、市民の皆様に理解しやすい情報を提供できるよう努めてまいります。